

公立大学法人公立小松大学

第 1 期中期目標期間 業務実績の評価



令和 6 年 8 月

小松市公立大学法人評価委員会
Komatsu City University Evaluation Committee

contents

I 全体評価	総評	02
II 項目別評価		
(1) 教育・研究編	① 教育	03
	② 研究	05
	③ 国際交流	07
(2) 地域貢献編	① 地域貢献	09
(3) 法人経営編	① 業務運営	11
	② 財務	12
	③ 自己点検・評価/広報	13
	④ その他	14
III 資料		
(1) 評価		15
	評価の基本方針/評価項目/小項目別評価 総括表/評価基準	
(2) 用語解説		17
キャンパスマップ		18

全体
評価

A

中期目標を達成できている

公立大学法人公立小松大学の第1期中期目標期間において、8項目からなる大項目別評価の全てがA評価(中期目標を達成できている)となっている。また、6年間の各年度においても「全体として中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価されている。以上より、第1期中期目標期間業務実績は「全体として中期目標を達成できている」と評価できる。

開学以来、3年連続で就職内定率100%を達成している。また就職希望者の約5割が石川県内に就職するなど、地方創生に寄与するとともに、保健医療学部为国家試験合格率が全国平均を大きく上回る水準で推移したことは、特筆に値する。引き続き、積極的な就職支援活動を展開するとともに、今後も、学生の意向や企業からのニーズにより応えられるよう取り組んでいきたい。

教育面では、新型コロナウイルス感染症の流行により交流が制限される中においても、海外大学等との交流協定締結や長期・短期の交換留学、産官学合同シリコンバレー研修などを継続的に実施できたことは大きく評価したい。また、災害や物価高騰等の影響を受けた学生に対して経済的支援を実施するなど、学習機会の確保に向けた取り組みについても評価できる。開学6年目には大学機関別認証評価を受審し、適合認定を受けたことは大きな活動成果といえ、教育研究の質の向上が今後一層高まるよう期待する。

研究面では、科学研究費補助金等の外部資金の獲得状況が目標値を大幅に上回っていることは評価できる。今後も継続するとともに、大型研究種目での採択も期待したい。

第1期中期計画期間においては、大学院サステイナブルシステム科学研究科を開設し、理系、医系、文系の3つの学部・専攻が垣根を超えた連帯と協働で取り組む教育環境が整備された。

今後も教育研究活動が活発に展開されるとともに、地域と世界で活躍できる人間性豊かな人材を育成し、地域社会の発展に貢献されることを期待したい。

項目別評価

項目		評価結果	評価基準
(1) 教育・研究	① 教育	A 達成できている	S 達成が特筆すべき状況
	② 研究	A 達成できている	A 達成できている
	③ 国際交流	A 達成できている	B 概ね達成できている
(2) 地域貢献	① 地域貢献	A 達成できている	C 達成状況が不十分
(3) 法人経営	① 業務運営	A 達成できている	D 達成できていない
	② 財務	A 達成できている	
	③ 自己点検評価・広報	A 達成できている	
	④ その他	A 達成できている	

主な活動内容と成果

- 第1期中期目標期間において、3キャンパスにおける教育研究環境の基盤整備、学生満足度の高い教育の提供、教育研究及びその成果の地域への還元、地域貢献などに計画的に取り組んだ。
- 令和4年に専門の垣根を超え、複雑化する地域と世界の諸課題の解決と持続可能性への貢献を目指して、大学院サステナブルシステム科学研究科を新設し、2年後の令和6年に博士後期課程を開設した。
- 開学6年目に大学機関別認証評価を受審し、「適合」認定を受けた。これを契機とし、自己点検評価・内部質保証推進会議を設置し、内部質保証に係る方針及び手続きを定めた。
- 国家試験では、個々の学生に応じた細やかな国家試験対策の充実・強化に努め、各種国家試験の合格率は総じて高い水準で推移した。保健師の合格率は3年連続で100%、看護師は令和3年度と5年度で100%、臨床工学技士は令和4年度100%となった。
- キャリアサポートセンターを設置し、各学科・専攻と連携し、各種就職支援活動を行った。就職内定率は3年連続で100%となり、3年間の卒業生707名の内299名が石川県内に就職し、地方創生に寄与した。
- 新型コロナウイルス感染症や災害、物価高の影響による家計急変者に対して、小松市及び大学基金を活用した支援金支給や貸付等による緊急経済支援を行った。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われており、中期目標を達成できていると評価される。

【評価】

- ◎大学の開学、開設を着実に実施し、毎年、入学定員を上回る学生を確保し、さらに就職内定率が100%を達成できていることは大いに評価できる。
- ◎大学機関別認証評価の受審の過程において、改善を要する点などが求められている場合は、今後活かしていただきたい。
- ◎共通教育において、学生の主体的学びを大事にしたアクティブラーニングを取り入れており、今後さらなる多くの科目で実施されることが期待される。
- ◎専門領域を超えた分野横断的取り組みや小松市など地域社会や地域産業界と連携した教育が行われている。この種の方向性が、今後、充実・発展することが期待される。
- ◎各種国家試験の合格率が高い水準にあり、カリキュラムに沿って充実した教育を実施し、さらに国家試験対策も十分に行った成果であり、大いに評価できる。
- ◎コロナ禍でもオンライン授業をすみやかに併用し教育研究活動を停滞させず、また、国や市、大学独自の給付金や貸付金などの制度を活用・新設し、学生の学びの継続のための経済支援が講じられたことは評価できる。

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標期間実績	(説明)
志願倍率	志願者数／募集定員	最終年度	2倍 以上	4.66倍	最終年度
学生の満足度	5段階評価（平均値）	毎年度	3.3	4.2	期間平均
外国語能力検定試験結果	国際文化交流学部 TOEICスコア（4年生平均）	毎年度	600点	556点	期間平均
標準修業年限での卒業者の比率	4年間で卒業した人数／ 当該年度入学者数	毎年度 (完成年度以降)	80%	89%	期間平均 (完成年度以降)
就職希望者の就職率	就職者数／就職希望者数	毎年度 (完成年度以降)	90%以上	99%	期間平均 (完成年度以降)
国家試験合格率	看護師の合格率	毎年度 (完成年度以降)	95%以上	99%	期間平均 (完成年度以降)
	保健師の合格率	毎年度 (完成年度以降)	95%以上	100%	期間平均 (完成年度以降)
	臨床工学技士の合格率	毎年度 (完成年度以降)	95%以上	94%	期間平均 (完成年度以降)
市民公開講座 開講数	開講テーマ数／年	完成年度以降	10 / 年	13	期間平均 (完成年度以降)
	教員参画数／年	完成年度以降	20人 / 年	延べ22人	期間平均 (完成年度以降)
市民による 施設利用度	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	660人	期間平均
	自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	595人	期間平均
	大学施設利用件数／年	毎年度	25件	264件	期間平均
インターンシップ 参加者数	参加者数／年	毎年度 (3年目以降)	200人	延べ219人	期間平均 (3年目以降)

主な活動内容と成果

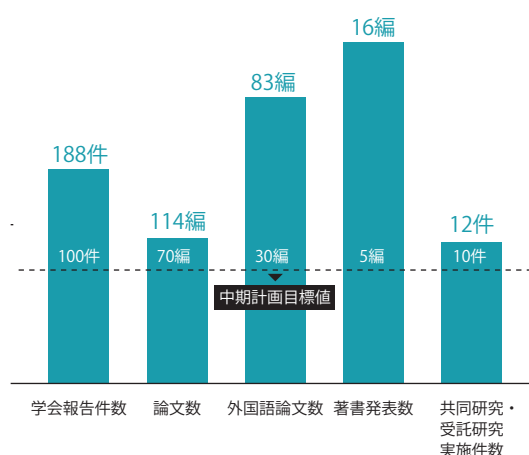
- 研究力の向上を図るため、研究助成金制度「重点研究みらい」、「重点研究つよみ」を創設し、学長のイニシアティブのもと分野横断型の研究を推進するとともに、研究活動の活性化に繋げた。
- 各学科の特長を生かした個別研究を支援する「研究発展・向上費」による助成、分野横断型の学内研究会「Salon de K」の定期開催を通じて研究力の向上を図った。
- 研究シーズ集・研究者要覧及び広報誌「Tachyon Academia」を発行し、イベントや協力企業等に配布するとともに、大学Webサイトにおいて研究活動を発信した。
- マヤ文明世界遺産研究部門と日本遺産小松の石文化研究部門から構成される次世代考古学研究センターを創設するとともに、マヤ文明を代表する2つの世界遺産に、研究教育拠点としてのリエゾンオフィスを開設した。
- 科学研究費補助金をはじめとする外部資金獲得に向け、学内の研究助成・産官学連携情報サイトにおける公募情報の配信、教職員F D・S D研修会の実施、外部主催の説明会への参加促進などを図った。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われており、中期目標を達成できていると評価される。

【評価】

- ◎研究シーズ集・研究者要覧、広報誌「Tachyon Academia」、大学Webサイト等において研究活動及び研究成果を広く公表し、技術相談やシーズ・ニーズマッチングに活用されるとともに、共同研究や受託研究へ発展することが期待される。
- ◎科学研究費補助金の採択件数が毎年目標値を上回って採択されていることは評価できる。今後も継続するとともに、大型研究種目の採択も目指していただきたい。
- ◎大学院の設置に応じて研究活動が活発に展開されている。大学特有の分野横断型研究や、災害など地域特有の課題をテーマとした地域貢献型研究などの積極的な展開が期待される。
- ◎研究室活動に対する安全環境整備、安全関連委員会の開催などが積極的に行われている。



<教員の研究実績>

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標期間実績	(説明)
学会報告件数	報告件数／年	完成年度以降	100件	188件	期間平均 (完成年度以降)
論文・著書数	論文数／年	完成年度以降	70編	114編	期間平均 (完成年度以降)
	英語・その他の外国語 論文数／年	完成年度以降	30編	83編	期間平均 (完成年度以降)
	著書発表数／年	完成年度以降	5編	16編	期間平均 (完成年度以降)
共同研究・ 受託研究数	実施件数／年	完成年度以降	10件	12件	期間平均 (完成年度以降)
科学研究費補助金等 獲得状況	科学研究費補助金 採択件数／年	完成年度以降	15件	48件	期間平均 (完成年度以降)
	その他外部研究資金 採択件数／年	完成年度以降	5件	25件	期間平均 (完成年度以降)

シーズ・ニーズマッチングシンポジウム

教員の研究発表や意見交換、大学の取組などを紹介。
大学の研究シーズを広く地域に公開し、地域課題の解決など地域のニーズとつなげた。



市民公開フォーラム

市民や地域社会への知の還元を図るため、開学記念フォーラムに始まり、毎年度継続して市民公開フォーラムを開催。
教員の研究紹介のほか、第一線で活躍する外部講師を招いた講演などを行った。



評価

A

中期目標を達成できている

主な活動内容と成果

- 国際化を推進する組織として、国際交流センターを設置し、留学相談や留学説明会、奨学金支給などの支援を行った。
- 海外大学等との交流協定を19件締結するとともに、海外オフィス3か所を設置した。
- 長期・短期の交換留学、海外語学研修、異文化体験実習、アンコール遺跡整備公団インターンシップを実施したほか、外務省「カケハシ・プロジェクト」や中島記念国際交流財団の助成金を活用した交流事業を推進した。
- 国立研究開発法人科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン」の採択を受け、生産システム科学部がタイ王国の協定校とオンライン交流会を実施した。また、3年連続でJICA青年研修事業の採択を受け、保健医療学部と仏語圏・英語圏アフリカ諸国やカンボジアの医療従事者らが学術交流を深めた。
- 外国人留学生に対して、日本語教育の実施、学生寮の確保、チューター制度による生活支援を行った。国際交流センター公認サークルKOMAFriendが留学生交流事業を支援した。
- 小松市や国際交流協会等と連携し、JAPAN-TENT、サマースクール、各種スピーチコンテストへの参加及び英会話・中国語カフェを開催するなど、地域の異文化交流を促進した。



評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われており、中期目標を達成できていると評価される。

【評価】

- ◎留学生の派遣、受入れを促進するためには、様々な情報提供や支援が不可欠であり、国際交流センターの一層効果的な活動を期待する。
- ◎海外大学等の交流締結数は目標値を大きく上回った。さらなる国際交流の活発化、海外研修の促進が必要と思われる。
- ◎コロナ禍の渡航制限による影響を受けたが、オンライン語学プログラムを活用しながら、学生の留学派遣人数は目標値を達成することができた。グローバル人材の育成を目指す大学として、さらに派遣人数を増やし、多くの学生が国際感覚を身につけることを期待する。
- ◎小松市や国際交流協会等と連携し、地域における多文化理解や語学研修に留学生や学生、教員らが参加し、国際交流活動を推進した。



国際交流サークルKOMAFriend

国際交流センター公認サークルとして令和5年度に設立。留学生や海外協定校等からの訪問者に対し、日本文化体験をはじめとするさまざまなイベントを実施。

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標期間実績	(説明)
留学生受入・派遣数	受入人数／年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	8人	期間平均 (3年目以降)
	派遣人数／年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	42人	期間平均 (3年目以降)
海外大学等との 交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	19件	最終年度
国際シンポジウム・ セミナー等 発表・開催数	発表者数／年	完成年度以降	15人	44人	期間平均 (完成年度以降)
	開催件数(累計)	最終年度	15件	14件	最終年度

国・地域別海外連携機関

[中国] * 常州大学 * 東南大学 外国語学院・海外教育学院 [台湾] * 建国科技大学 * 国立中央大学 英米語文科学科・言語センター * 国立中山大学 工学部 [タイ] * プリンズ・オブ・ソンクラ大学 * ランシット大学 * モンクット王立工科大学トンプリー校 産業教育技術学部 * 泰日工業大学 * ナレスワン大学社会科学部 [カンボジア] * 国立アンコール遺跡整備公団 [マレーシア] * トウク・アブドゥル・ラーマン大学	[韓国] * 湖西大学校 [アメリカ合衆国] * オースティン・ピー州立大学 シリコンバレーオフィス ディカルリエゾンオフィス コパンリエゾンオフィス [グアテマラ共和国] * グアテマラ共和国文化スポーツ省 文化自然遺産副省 * デル・バジェ大学 [ホンジュラス共和国] * ホンジュラス国立文化人類学歴史学研究所	[インドネシア] * ハサヌディン大学 [ニュージーランド] * オークランド大学 English Language Academy
---	--	--

協定校留学プログラム・海外語学研修・異文化体験実習・海外インターンシップ

本学との間に交流協定を締結した大学への長期留学や、夏季および春季長期休暇を利用した2週間から1ヶ月程度の海外語学研修や海外異文化体験実習、夏季および春季長期休暇を利用し海外での就労体験等を行う海外インターンシップなど多様なプログラムを実施。



評価

A

中期目標を達成できている

主な活動内容と成果

- 地域連携推進センターを設置し、共同・受託研究の推進をはじめ、市民公開フォーラム、シーズ・ニーズマッチングシンポジウム、こまつ市民大学（共催）、産官学連携イベントへの出展等により、研究活動を発信した。また、地方自治体等からの委員委嘱・派遣を通じて、政策提言や計画策定支援を行った。
- 開学記念として、ハーバード大学の著名研究者らを招き、宇宙・地球・ひとをテーマに複数の講演会やシンポジウム、研究セミナーを開催した。
- 「産学合同シリコンバレー研修」を実施し、現地の最新動向に触れつつ、地域の課題解決に向けて取り組んだ。令和5年度は小松市の参加と助成を得て「産官学合同シリコンバレー研修」へ規模を拡大して実施した。
- 高大連携を推進する基盤として、小松市立高等学校において、英語ブラッシュアップ講座や国際教養講座を実施した。
- 地域行事や木場潟・安宅海岸清掃活動への参加、新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種及び被災地におけるボランティア活動等を行った。
- 大学祭「青松祭」を毎年開催し、学生委員が中心となって企画・運営し、日ごろの学習・研究や課外活動の成果等を地域住民に公開した。



産官学合同シリコンバレー研修

公立小松大学シリコンバレーオフィス（アメリカカリフォルニア州）を拠点に令和元年度より「産学合同シリコンバレー研修」を実施（令和5年度からは「産官学シリコンバレー研修」）。シリコンバレーの起業文化と多彩な人種が集うネットワークに触れ、学ぶことで、国際感覚を養い、世界で活躍できる人材育成につなげた。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われており、中期目標を達成できていると評価される。

【評価】

- ◎ 地域連携推進センターは、本学の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域の振興と発展に貢献している。市民公開フォーラムなど公開講座の取り組みは、地域全体にアカデミックな雰囲気をもたらした。
- ◎ こまつ市民大学は、大学教員が有する研究成果や専門知識を活かした多種多様な講座が展開されており、地域社会で活躍する人材の育成として評価できる。
- ◎ 小松空港に加えて、令和5年度末に北陸新幹線小松駅が開業した。広域から大学へ短時間でアクセスしやすいという好立地を活かし、地域の発展に一層貢献するよう期待する。
- ◎ 大学祭「青松祭」は、大学の日ごろの学習・研究や課外活動の成果等を地域住民に公開し、市民との交流を深める貴重な機会となっている。今後も学生委員が中心となって企画・運営し、毎年開催するよう期待する。
- ◎ 高大連携の取り組みは評価できるが、さらに多くの高等学校への展開が期待される。小中学校の子供たちを対象とした公開講座の充実も期待される。

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標期間実績	(説明)
市民公開講座 開講数 (再掲)	開講テーマ数／年	完成年度以降	10／年	13	期間平均 (完成年度以降)
	教員参画数／年	完成年度以降	20人／年	延べ22人	期間平均 (完成年度以降)
市民による 施設利用度 (再掲)	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	660人	期間平均
	自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	595人	期間平均
	大学施設利用件数／年	毎年度	25件	264件	期間平均
連携施設・ 店舗等の数	累計数	最終年度	50件	419件	最終年度
学生の地域行事等 ボランティア件数・ 人数	件数／年	完成年度以降	20件	73件	期間平均 (完成年度以降)
	参加人数／年	完成年度以降	100人	224人	期間平均 (完成年度以降)

大学祭「青松祭」

実行委員会の学生を中心に、学生たちが自ら企画・準備し、毎年10月に開催した。中央キャンパスを会場とし、小松駅周辺のにぎわいの創出につながった。



地域行事への参加

5月の「お旅まつり」や10月の「どんどんまつり」など、小松市の地域の伝統行事やイベントに学生が積極的に参加した。

評価

A

中期目標を達成できている

主な活動内容と成果

- 大学院設置、内部質保証推進、教員評価など、大学運営の重要な課題について機動的に対応するため、教職協働のプロジェクトチームやタスクフォースを立ち上げて、運営課題等に機動的に対応した。
- 大学院サステナブルシステム科学研究科開設に合わせて、栗津キャンパス大学院棟及び末広キャンパス研究実験棟を自己資金にて整備し、教育研究水準の向上を図った。
- 教職員の教育研究の資質向上を目指して、授業の実施方法、研究倫理、ハラスメント防止など、多様なテーマで教職員FD・SD研修会を実施した。
- 学務情報システム、財務会計システム、人事給与システム、図書館システムを導入し、業務の効率化を図った。またMicrosoft365を導入し、学生及び教職員の学外でのメール利用やオンライン会議等の機能を活用することで、利便性の向上を図った。



栗津キャンパス大学院棟竣工式

竣工に伴い電子顕微鏡分析器、小型風洞、放電加工機など多様な実験装置を導入し、専門性の高い研究・実験が可能な環境を整備。教育・研究の質の向上を図った。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われており、中期目標を達成できていると評価される。

【評価】

- ◎教職協働のプロジェクトチームやタスクフォースを立ち上げて、運営課題等に機動的に対応したことは評価できる。大学が社会や地域のニーズに応えるために取り組むべき課題は増加、多様化しており、今後も必要に応じて教職協働体制で対応することが求められる。
- ◎大学院サステナブルシステム科学研究科の開設を高く評価するとともに、今後の研究業績に期待したい。高度な人材育成、国際社会への貢献など、大学院に対する社会の要請や期待は高まっており、適切に対応してほしい。
- ◎引き続き業務効率化のためのDX化を推進していただきたい。

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標期間実績	(説明)
業務改善実施件数	件数(累計)	最終年度	40件	45件	期間平均
FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数/年	毎年度	1件以上	4件	期間平均

評価

A

中期目標を達成できている

主な活動内容と成果

- 志願者の増加を図るため、北陸三県、東海、信越地方などにおいて大学説明会や高校訪問を実施したほか、オープンキャンパスの開催、大学Webサイトでのニュース配信など多彩な入試広報を行った。最終年度となる令和5年度の学部入学志願者倍率は、4.66倍となった。
- 修学、教育研究、地域貢献、国際交流、キャンパス環境整備等を目的に「公立小松大学基金」を設立し、大学Webサイトやリーフレット送付により寄附の呼びかけを行った。また、産官学連携担当特任教授の企業訪問により、基金の件数・金額の増加を図った。
- キャンパス整備計画に基づき、栗津・中央・末広キャンパスを整備し、必要な人員配置を行った。効率的な業務運営や経営に努め、令和2年度から4年連続で損益において利益を上げることができた。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われており、中期目標を達成できていると評価される。

【評価】

- ◎ 多彩な入試広報を行った結果、第1期中期目標期間の最終年度となる令和5年度の学部入学志願者倍率が4.7倍となったことは、大いに評価できる。今後、18歳人口の減少が続くが、入学志願者の確保に一層努めていきたい。
- ◎ 令和2年度から4年連続で損益において利益を上げることができたことは、効率的な業務運営や経営に努めた成果であり、評価できる。



オープンキャンパス（左から生産システム科学部・保健医療学部・国際文化交流学部）
模擬授業や体験、キャンパス見学など学部・学科ごとに様々なプログラムを実施。

数値指標の達成状況

項目	考え方	達成年度	中期計画目標値	中期目標期間実績	（説明）
自己収入額	自己収入額／年	毎年度 （完成年度以降）	7億円 以上	7.7億円	期間平均 （完成年度以降）
科学研究費 補助金等獲得 状況（再掲）	科学研究費補助金 採択件数／年	完成年度以降	15件	48件	期間平均 （完成年度以降）
	その他外部研究資金 採択件数／年	完成年度以降	5件	25件	期間平均 （完成年度以降）

評価

A

中期目標を達成できている

主な活動内容と成果

- 自己点検評価・内部質保証推進会議を中心に、全学、組織、教員の3つの階層でPDCAサイクルを機能させ、定期的・継続的な自己点検・評価を実施するとともに、評価室ヒヤリングを年2回実施し、各部局の年間計画に係る進捗管理及び業務実績のとりまとめを行った。
- 毎年度の業務実績について、小松市公立大学法人評価委員会による法人評価を受審し、指摘・改善事項は、業務改善や翌年度の年度計画に反映させた。評価結果や教育研究活動、財務情報は大学Webサイト等を通じて公表し、情報公開の促進を図った。
- 「広報室」を設置し、大学案内冊子、広報誌「Tachyon」、大学Webサイトの運用、ラジオ番組「世界に向かって飛び立て! 公立小松大学」など、さまざまな広報活動を展開した。本学の魅力を学生目線で発信するため、広報室学生委員を設置し、公式SNS発信等の活動を行った。

広報誌Tachyon／Tachyon Academia

広報誌Tachyonは年2回発行し、市内公共施設に設置しているほか保護者や北陸三県の高校等へ送付し、学生の様子や大学の取り組みを広く発信した。TachyonAcademiaは生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部から1名ずつ教員の研究内容や成果について詳しく紹介した。



評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われており、中期目標を達成できていると評価される。

【評価】

- ◎自己点検・評価に係る取り組みは十分に実施している。一方で、今後過度な負担にならないよう見直しも必要と思われる。
- ◎(一財)大学教育質保証・評価センターによる機関別認証評価は、「大学が行う教育研究の質を保証するための評価」を行うことを目標にしている。大学初となる受審の結果、センターが定める適合の評価を受けたことは、大学のこれまでの取り組みの総決算といえる。
- ◎広報活動は志願者確保のためにも重要である。特に大学Webサイトを活用した広報活動は効果的であり、引き続き学生目線で発信していただきたい。

広報室学生委員

令和2年度に学生の視点やアイデア、発信力を取り入れ、大学の広報活動の多様性を高めることを目的に「広報室学生委員」を設置。サークル取材や新入生インタビューを行い、ホームページや広報紙Tachyonに掲載するなど、学生目線による情報発信を行った。



評価

A

中期目標を達成できている

主な活動内容と成果

- 大学開学時に、粟津キャンパスのエレベーター新設、研究室・実習室、トイレの改修、末広キャンパスC棟の増築工事、A棟・B棟の改修を実施した。
- 町家ハウスDoihara・Ryusuke及びこまつビジネス創造プラザを活用し、学生のゼミ・サークル活動、教員・大学院生の研究室として利用した。
- 安全管理のため各キャンパス、学生寮において防災訓練や研修会を実施するとともに、危機管理マニュアルや防災備蓄品を随時更新した。海外渡航時危機管理マニュアルを整備し、危機管理体制を強化した。
- 地震などの災害時に、学生及び教職員宛にメールを一斉配信する緊急通報・安否確認システムを導入し、年に2回配信訓練を実施した。
- 定期健康診断やストレスチェック、ハラスメント防止研修会等を実施し、教職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。



緊急通報・安否確認システム「SafetyLink24」

令和元年度に運用を開始。震度5以上の地震発生時には自動で安否確認メッセージの発信を行い、災害時・緊急時の連絡、安否確認体制を構築した。

評価委員会による評価

中期目標の各項目において、目標を達成または上回る取組が行われており、中期目標を達成できていると評価される。

【評価】

- ◎大学開学時の、施設や設備の新設・改修・整備は、教育研究環境の充実ために不可欠であり、引き続き、必要に応じて実施していただきたい。
- ◎令和6年能登半島地震は、災害はいつでも、どこでも発生することの教訓になったといえる。有効な防災訓練や防災備蓄品の更新の点検などが一層求められる。
- ◎各種防災マニュアルの整備や安全衛生管理対策が行われている。小松市との連携をより強化し、防災・避難に対する組織的・計画的な防災対策の取り組みを期待したい。

危機管理訓練

危機管理マニュアルに基づき、危機管理訓練を実施。令和5年度には、教職員向けに留学や語学研修など学生の海外渡航時を想定した実践形式の危機管理訓練を実施した。



(1)
評価

評価の基本方針

第1期中期目標期間業務実績評価は、公立小松大学法人公立小松大学(以下「法人」という)の中期目標の達成に向けた進捗状況を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行う。なお、評価の際は、法人の教育研究の特性や業務運営の自主性・自律性に配慮するとともに、評価を通じて、法人の中期目標の達成状況を市民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

評価項目

項目別評価	小項目別評価	中期計画の最小項目として記載されている各事項の達成見込。評価基準に沿って評価を行う
	指標単位評価	中期計画の各数値目標の達成見込。評価基準に沿って評価を行う
	大項目別評価	小項目別評価及び指標単位評価を踏まえた、中期目標における大項目ごとの達成見込。大項目ごとに評価基準に沿って、中期目標の達成見込を総合的に勘案して評価を行う
全体評価		項目別評価を踏まえた中期目標全体の達成見込。大項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の全体的な達成見込について総合的に勘案して評価を行う

小項目別評価 統括表

中期目標・中期計画 大項目		事業 項目数	5 中期計画を 大幅に上回る 見込み	4 中期計画を 上回る 見込み	3 中期計画を 概ね実施する 見込み	2 中期計画を 十分に実施 できない 見込み	1 中期計画を 大幅に下回る 見込み	評価 平均値
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ①教育に関する目標を達成するための措置	14	4 (28.6%)	9 (64.3%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.2
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ②研究に関する目標を達成するための措置	4	0 (0.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
II	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ③国際交流に関する目標を達成するための措置	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.7
III	地域貢献に関する 目標を達成するための措置	5	1 (20.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
IV	業務運営の改善及び効率化に関する 目標を達成するための措置	12	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.1
V	財務内容の改善に関する 目標を達成するための措置	8	0 (0.0%)	5 (62.5%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
VI	自己点検・評価及び情報の提供に関する 目標を達成するための措置	4	0 (0.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
VII	その他業務運営に関する 目標を達成するための措置	12	0 (0.0%)	10 (83.3%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
※ XII	余剰金の使途	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.0
※ XIII	その他設立団体の規則で定める 業務運営に関する事項	2	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.5
合計		65	8 (12.3%)	48 (73.8%)	9 (13.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0

※中期計画に大項目として記載しているXII、XIIIに係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。

評価基準				
評価区分		設定	評価基準	評価の目安
項目別評価	小項目別評価	5	中期計画を大幅に上回る	特に優れる若しくは顕著な成果がある
		4	中期計画を上回る	上回る若しくは十分な実施状況
		3	中期計画を概ね実施	実施している
		2	中期計画を十分に実施せず	下回る若しくは実施が不十分
		1	中期計画を大幅に下回る	特に劣る若しくは実施していない
	指標単位評価	S	中期計画を大幅に上回る	達成率100%以上かつ顕著な成果がある
		a	中期計画を上回る	達成率100%以上
		b	中期計画を概ね実施	達成率80%以上 100%未満
		c	中期計画を十分に実施せず	達成率60%以上 80%未満
		d	中期計画を大幅に下回る	達成率60%未満
	大項目別評価	S	中期目標の達成が特筆すべき状況にある	小項目別評価の平均値が4.3以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに中期目標の達成状況や特記事項の内容に特筆すべき成果や取組があると評価委員会が認める場合
		A	中期目標を達成できている	小項目別評価の平均値が3.5以上4.2以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに評価委員会が「A」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が3.5以上4.2以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の中期目標達成状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合
		B	中期目標を概ね達成できている	小項目別評価の平均値が2.7以上3.4以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、さらに評価委員会が「B」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が2.7以上3.4以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の中期目標達成状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合
		C	中期目標の達成が不十分である	小項目別評価の平均値が1.9以上2.6以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、さらに評価委員会が「C」相当と認める場合 小項目別評価の平均値が1.9以上2.6以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の中期目標達成状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「C」相当と認める場合
		D	中期目標を達成できていない	小項目別評価の平均値が1.8以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期目標の達成状況に重大な改善事項があると認める場合
全体評価	S	中期目標の達成が特筆すべき状況にある	中期目標の全体的な達成状況について総合的に勘案し、評価	
	A	中期目標を達成できている		
	B	中期目標を概ね達成できている		
	C	中期目標の達成が不十分である		
	D	中期目標を達成できていない		

地方独立行政法人	住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地からその地域において確実に実施される必要のある事務・事業のうち、地方公共団体自身が直接実施する必要はないものの、民間の主体に委ねては確実な実施が確保できないおそれがあるものを効率的・効果的に行わせるため、地方公共団体が設立する法人。
公立大学法人	地方独立行政法人のうち、大学の設置及び管理を行うもの。公立小松大学の設置・管理は、「公立大学法人公立小松大学」が行っている。
評価委員会	地方独立行政法人法第11条の規定により小松市長の附属機関として設置され、中期目標の策定や中期計画の認可に際しての意見の提示、法人の業務成績についての評価を行うほか、評価結果を踏まえ必要に応じて業務運営の改善・勧告を行うなど、法人の運営に関し、第三者の視点から評価する。評価委員会の組織及び委員等必要な事項は、小松市公立大学法人評価委員会条例で定めている。
中期目標	法人が、6年間に於いて達成すべき目標で、市長が定め、公立大学法人に指示するもの。
中期計画	中期目標に基づき、当該中期目標を達成するために公立大学法人が作成するもの。
年度計画	中期計画を着実に実行していくために法人が年度ごとに作成するもの。
グローカル	「グローバル (Global) : 世界」と「ローカル (Local) : 地域」を掛け合わせた造語。グローカル人材は、国際社会で通用する能力やグローバルな視点・経験を有し、地域の活性化や持続的発展に貢献できる人材を指す。
キャリアデザイン	自分の職業人生を自らの手で主体的に構想・設計＝デザインすること。自分の経験やスキル、ありたい将来像についてを考慮しながら、自らの持つ能力を活かすための仕事、職務の形成を進める。
共同研究	外部機関から研究経費等を受け入れ、大学の教員等が外部機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究や、大学・外部機関において共通の課題について分担して行う研究。
受託研究	大学が外部からの委託を受けて職務として行う研究で、これに要する経費を委託者が負担するもの。
科学研究費補助金	文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会の事業。 すべての分野、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うもの。
ファカルティ・ディベロップメント (FD)	教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。
スタッフ・ディベロップメント (SD)	職員全員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。「職員」には、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含まれる。
FD・SD活動	ファカルティ・ディベロップメント (FD) やスタッフ・ディベロップメント (SD) のための大学としての活動。
自己収入額	経常収益のうち、「授業料」「入学金」「検定料」等の合計。

Campus Map



中央キャンパス

[全学部・国際文化交流学部]

〒923-0921 石川県小松市土居原町10番地10
アクセス ▶ 小松駅から徒歩約1分

※小松駅前の複合施設「こまつアズスクエア」2・3階



末広キャンパス

[保健医療学部]

〒923-0961 石川県小松市向本折町へ14番地1
アクセス ▶ 小松駅から路線バスで
「市民病院」下車(所要時間約7分) 徒歩約3分、
小松駅から徒歩約23分

※南加賀地域の広域医療の拠点である小松市民病院に隣接



栗津キャンパス

[生産システム科学部]

〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
アクセス ▶ 栗津駅から徒歩約12分

※南加賀地域のものづくり集積地の中心に位置

Evaluation Report of Komatsu University's Activities and Administration

問合せ

小松市役所 総合政策部 総合政策課

〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地

TEL 0761-24-8037 E-mail : kikaku@city.komatsu.lg.jp

公立大学法人 公立小松大学 事務局総務課

〒923-0921 石川県小松市土居原町10番地10

TEL 0761-23-6600 E-mail : soumu@komatsu-u.ac.jp